

平成 29 年度事業評価について

平成 29 年度の外部評価の実施状況及び事業評価結果は次の通りであった。

(1) 外部評価員 7 名

平成 30 年 8 月現在

稲田 奈緒美 氏	元 日本芸術文化振興会 プログラムオフィサー 現 桜美林大学芸術文化学群准教授
稲村 太郎 氏	ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室 准主任研究員 セゾン文化財団 プログラムオフィサー
恵良 隆二 氏	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 専務理事
楫屋 一之 氏	元 世田谷パブリックシアター 劇場部長 現 県国際文化観光局舞台芸術担当部長兼青少年センター参事
竹内 孝宏 氏	青山学院大学総合文化政策学部 教授
松平 あかね 氏	音楽評論家、声楽家
水田 堯 氏	上野学園大学グローバル教養コース 特任教授

(2) 評価方法

- 重点文化事業[表 1]を中心に、外部評価員が実地見学を実施し、事業評価シート（個票）に個別事業の評価を記述
- 年間の総合的な評価として、年度毎の重点テーマ及び各事業について事業評価シート（総合）に評価を記述
- 外部評価員と職員とが出席する「事業評価会議」を開催し、意見交換や議論の上、当該年度の事業評価を総括

(3) 評価実施状況

○個別事業評価数（事業評価シート（個票）の提出数）

県民ホール	9事業	12名
芸術劇場	19事業	25名
音楽堂	14事業	25名
計（延べ）	41事業	62名

[表1] 平成29年度重点文化事業

3館合同プロジェクト	5～6月	3館合同オーペンシアター2017
芸術監督プロジェクト	1月	ミュージック・クロスロード

県民ホール	5月	舞台芸術講座特別編 GWキッズ・プログラム 加藤昌則先生とたのしむ 音楽たいけん
	6月	一柳慧プロデュース ユリシーズ弦楽四重奏団
	3月	<オペラ歌手養成プログラム> 神奈川県民ホール巡回事業 未来に羽ばたくオペラ歌手たちによる『魔笛』コンサート

KAAT	5月	春のめざめ
	7月～8月	不思議の国のアリス
	7月～9月	音で観るダンスのワークインプログレス
	12月	人材育成講座 「障害」とはどういうことなのか?
	1月	KAAT 舞台技術講座 2017 「舞台技術者の国際協働」／「劇場に潜む危険を学ぶ」

音楽堂	8月	三ツ橋敬子の「新☆夏休みオーケストラ！」
	8月	三ツ橋敬子の「新☆夏休みオーケストラ！」 音楽体験企画

○事業評価シート（総合）

提出 7名提出

○事業評価会議

平成30年8月31日（金）

出席評価員 6名出席

出席財団職員 副理事長、専務理事、理事（県民ホール館長、芸術劇場館長）、担当職員、事務局

(4) 評価結果 (概要)

1. 平成 29 年度重点テーマ「人材育成活動の成果 (劇場法への対応)」について

<p>平成 28 年度から県民ホールでも開始する人材育成について検証する。 劇場法 (文化庁劇場・音楽堂等活性化事業) や県の文化政策などの求めにどう応じるか、方向性を議論し、今後の活動に生かす。(音楽堂でのこのテーマの扱い方についても検証する)</p>	
<p>県民ホール</p>	<p>個別の目標や施策</p> <p>アーティスト養成・アートマネジメント人材育成 (オペラ)・県内施設運営スキルのレベルアップ・芸術文化のアクセシビリティ向上</p>
	<p>【アーティスト養成】○公演事業と連携し、育成後に機会を提供していることを評価する。○内部で機会を提供しているだけでは不十分で、県民に対する説明責任として、事業の枠を離れた、コンクールで優勝するなどの説明が必要だろう。○教育機関ではできないアーティストのセルフマネジメントの指導を行っていることが評価でき、先進事例となり得る。 【施設運営】○施設を超えた広がりある成果を生み、継続の意義は大きい。○継続によって施設間、スタッフ間の関係性を深め、さらに成果の検証を行うことが望まれる。</p>
<p>芸術劇場</p>	<p>個別の目標や施策</p> <p>若手演出家養成・専門人材 (舞台技術者) のスキルアップ・アートマネジメント人材育成 (演劇)・演劇界を担う人材の輩出・劇場間相互ネットワーク構築・芸術文化のアクセシビリティ向上</p>
	<p>【若手演出家】○大規模な企画に挑戦する機会を提供し、公演の評判も高く、今後のキャリアの幅を広げるきっかけとなった。○KAAT らしい実験的な要素やオリジナルな要素を含んだ若手育成を評価する。 【舞台技術者】○実践的な講習で、技術者間のネットワーク形成を促し、公共劇場ならではのミッションに挑んでいる。○KAAT のプレゼンス、国内の技術力の向上に資する試み。 【アートマネジメント】○インターンについては、自己評価にあるように、受け入れる側の体制整備が重要で負担は当然だとして、今後は専門的な教育方法が必要になってくるだろう。 【アクセシビリティ向上】○音で見るダンスのワークインプログレスは、ユニークな企画。</p>
<p>音楽堂</p>	<p>個別の目標や施策</p> <p>(人材育成事業の事業立てではなく公演事業の中で取り組みを行う) 鑑賞普及事業中で若手芸術家に活躍の場を与える</p>
	<p>○若手指揮者の継続的な登用というところに、育成責任を引き受けようとする姿勢が見られる。○人材育成事業を行うことは、音楽堂のあり方の再確認が求められる状況とも言える。</p>
<p>全体</p>	<p>○劇場に関わる人材の資格・認定制度がない社会において、公共劇場で、人材の育成事業を行うことには限界がある。事業と並行して文化庁や文科省へ提言していくことも必要。○人材育成事業を劇場が行うべきかどうかはさまざまな観点があるが、10 年後の財団を考えると、必ずあがってくる重要事項と考える。○人材育成事業の評価は長期的な視点が重要で、効果を振り返る機会があるといい。</p>

2. 経年評価項目について

① 定量的評価項目

【文化事業評価指標】 主催事業のチケット販売率・主催事業の事業収入比率（事業収入/事業総支出）

【施設運営評価指標】 来館者数・ホール利用率・利用料金収入

県民ホール	<p>【文化事業】 他の公共劇場と比較すると、立派な数字である。休館中による県域公演の経費増により事業収入比率に達しなかったことについて、経費の効果の確認が必要である。</p> <p>【施設運営】 目標値を大きく上回るが、休館という特殊事情があるだろう。</p>
芸術劇場	<p>【文化事業】 若手を起用する等の公演において、目標値の高さ、実績ともに高く評価できる。</p> <p>【施設運営】 数値目標を大幅に超えた実績は評価できる。要因と分析が重要だ。</p>
音楽堂	<p>【文化事業】 公演のバランスを取った結果としての目標値達成は評価できる。</p> <p>【施設運営】 アマチュアの新規利用が増加したこと、高い利用率は高く評価できる。</p>

② 定性的評価項目

県民ホール	文化事業	<p>【芸術創造事業】 ○休館に際したオペラの県内巡回事業は、創造的な劇場の役割を果たしたことが評価できる。○（同事業）顧客開拓、育成や広報の知見などの成果を生かした今後の展開を期待する。○ユリシーズの公演は、芸術監督の存在を活かした現代音楽の企画で評価できる。国内の若手演奏家に刺激を与える素晴らしい内容だった。</p> <p>【普及事業】 ○オープンシアターは、地域への貢献、アクセシビリティ向上が評価できる。○（同事業）身体表現において古典バレエは入口としてふさわしいが、神奈川らしいオリジナリティと想像力をより喚起する工夫も取り入れてほしい。</p> <p>【全体】 ○小ホールは、もっと個性化し独立した使い方を試みることで、日本の小ホールを牽引することになり得る。</p>
	施設運営	<p>【貸館事業】 ○ホールだけではなく、会議室が高い利用率を維持していることが注目に値する。地域住民の生活文化と施設がうまくマッチしているといえる。○ユニークな貸館事業に取り組んでいる。○県民ホールの今後の柱となる分野は何か、貸館については、みなとみらい地区や2020年以降の環境変化を踏まえ、改めて捉えなおす時期。</p> <p>【維持管理】 ○継続的なバリアフリー・ユニバーサルデザイン化の取り組みは、この時期及び今後の社会に重要で評価する。○バリアフリーフェスタの出展など、外部への発信と信頼関係の熟成は望ましい。</p>

芸術劇場	文化事業	<p>【芸術創造事業】○芸術監督の明確な目標設定と、芸術的に質の高い公演が提供されている。○今後もクリエイティビティ溢れる活動に期待する。</p> <p>【普及事業】○意欲的なキッズプログラムは、第一線の出演者の理解とKAATの取り組みの姿勢の成果。○（同事業）翌年度の全国ツアーは高く評価できる。</p> <p>【国際芸術交流創造事業】○TPAMの継続性が、面的な広がりを持ち、都市のイメージアップに繋がっている。○（同事業）国際的演劇ネットワーク構築はKAATの存在理由の一つ。</p>
	施設運営	<p>【貸館事業】○「劇団四季」の貸館について、収入面、劇場の周知、新しい観客を呼び込むことに有効に機能している。○貸館がほぼ1事業ということは、議論の余地はあるが、ユニークな取り組み。○効果を分析し、副産物を最大限にいかすべき。</p> <p>【維持管理】○引き続き、劇場空間やパブリックスペースを活用するアートの新しい試みや、最大限活用する施策を積極的に打ち出すことを期待する。</p>

音楽堂	文化事業	<p>【芸術創造事業】○音響の良さ、機能がパフォーマンスのクオリティを向上させている。○意欲的な企画の成果が改修後の企画に反映することを期待する。</p> <p>【教育・普及事業】○良い企画で評価する。長期の成果や効果を整理することも重要と思われる。</p> <p>【地域連携】○アウトリーチの「呼び込み型」はよいアイデアで、そのメリットは児童にも教員にもはかり知れないものがある。</p> <p>【建築の魅力再発見プロジェクト】○文化資源の活用を幅広い部署との連携により実現してほしい。</p>
	施設運営	<p>【貸館事業】○利用者にリピーターが多いこと、利用者からの評価が高いことは非常に評価できる。○アマチュア利用、地域文化全体を見据えた公益性の高い運営をしている。</p> <p>【施設維持】○改修工事によりハード面が改善されることにより、館のイメージやブランドの情報発信、貸館の再構成を考えるいい機会だ。</p>

三館全体	広報	<p>○必ずしも3館で統一することはない。KAATの「angle」の発行のように、多様な観客層に多角的なアプローチをしていることは評価できる。</p> <p>○ターゲット設定を精緻に行い、マスな手段ではなく細かな情報をピンポイントで送り届けるようになっていこう。</p>
	かながわメンバーズの運営・チケット販売	<p>○一時的な会員増の効果の分析を。○会員との関係性を深める戦略が求められている。</p>

	資金調達	<p>○文化庁の補助金は、事業と管理運営が評価された結果である。今年度からはさらに客観的かつ生産的な自己評価が求められるため、今後も評価の取り組みを継続してほしい。</p> <p>○個人、法人からの資金調達は国内の公共劇場がかかえる大きな課題で、トップレベルの劇場・音楽堂としてモデルケースとなる取り組みを期待する。</p>
	3館の関係	<p>○3館合同という概念を超え、それぞれエリアの中で、地域と協調し、連携することも重要。○社会に向けての3館の役割はすでに明確である。</p>

③ 全体

外部評価シートについて	<p>○自己評価は、企画書のような事業の目標を書くのではなく、実施した後には起こりうる変化、これから期待されること、これらが書かれている方が適当である。○エビデンスが書かれていなければ評価のしようがない。今後、助成金等でもこうした自己評価を求められてくるため、事業を自らが評価し、それに対し課題を挙げていく評価システムを作り上げることが重要だ。</p>
財団について	<p>○財団は、基本的には館の3つの個性があった上で、ひとつの財団のブランドができていくイメージ。○財団のブランド力の強化、県民の信頼をどう得ていくかを訴求することが重要。</p>